

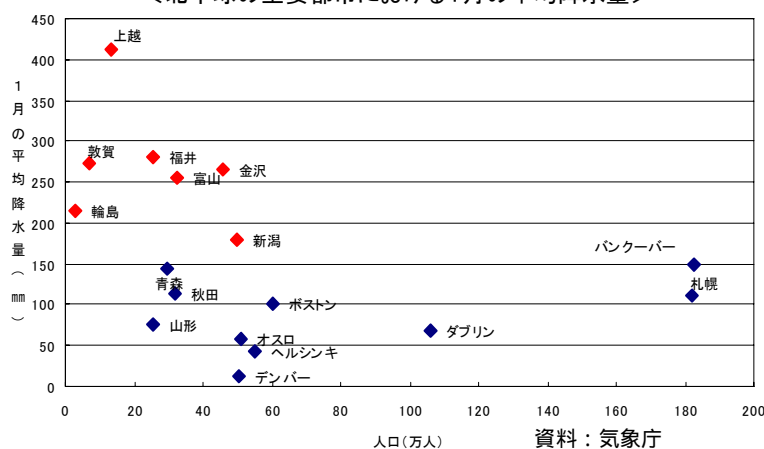
3. 世界有数の豪雪、急峻な地形、脆弱な地質などの厳しい自然と危機管理

北陸地方は世界有数の豪雪地帯にあり、日本アルプスに代表される急峻な地形、フォッサマグナによる脆弱な地質、地震、火山、急流河川、冬期の厳しい季節風による波浪等の自然災害要因が多い。また、山地が多くを占めるため、限られた平坦地に人口・資産が集中する一方で、災害発生危険度の高い山間部や細く狭い沿岸地域にも多くの人が居住している。更に、著しい高齢化の進展、安定した交通手段がないことによる救急医療に不安のある地域の存在等、自立・安定した暮らしの確保に課題が残されている。これらの課題を克服し、災害に強く障壁の無い、安全・安心な地域づくりを進めることが求められている。

●北陸は世界有数の豪雪地帯

北半球の主要都市の中で、1月に降水量(=降雪量)の多い都市は北陸地方に集中している。

＜北半球の主要都市における1月の平均降水量＞



北陸の全市町村が「豪雪地帯市町村」に指定されている。

県名	全市町村数	豪雪地帯市町村数(%)	特別豪雪地帯市町村数(%)
新潟	110	110 (100)	53 (48.1)
富山	35	35 (100)	13 (37.1)
石川	41	41 (100)	6 (14.6)
福井	35	35 (100)	5 (14.3)
北陸計	223	223 (100)	77 (34.5)
東北計	400	289 (72.3)	89 (22.3)

資料：国土統計要覧

●平坦な土地が少なく地質が脆弱な北陸

フォッサマグナとはラテン語で「大きな溝」を意味し、断層やマグマが噴き出した割れ目がある、脆弱な地質帯(地域)を指す。北陸地方を走る3本の構造線(断層)が日本列島のフォッサマグナを形成しており、土石流や地すべり等が起こりやすい地域となっている。



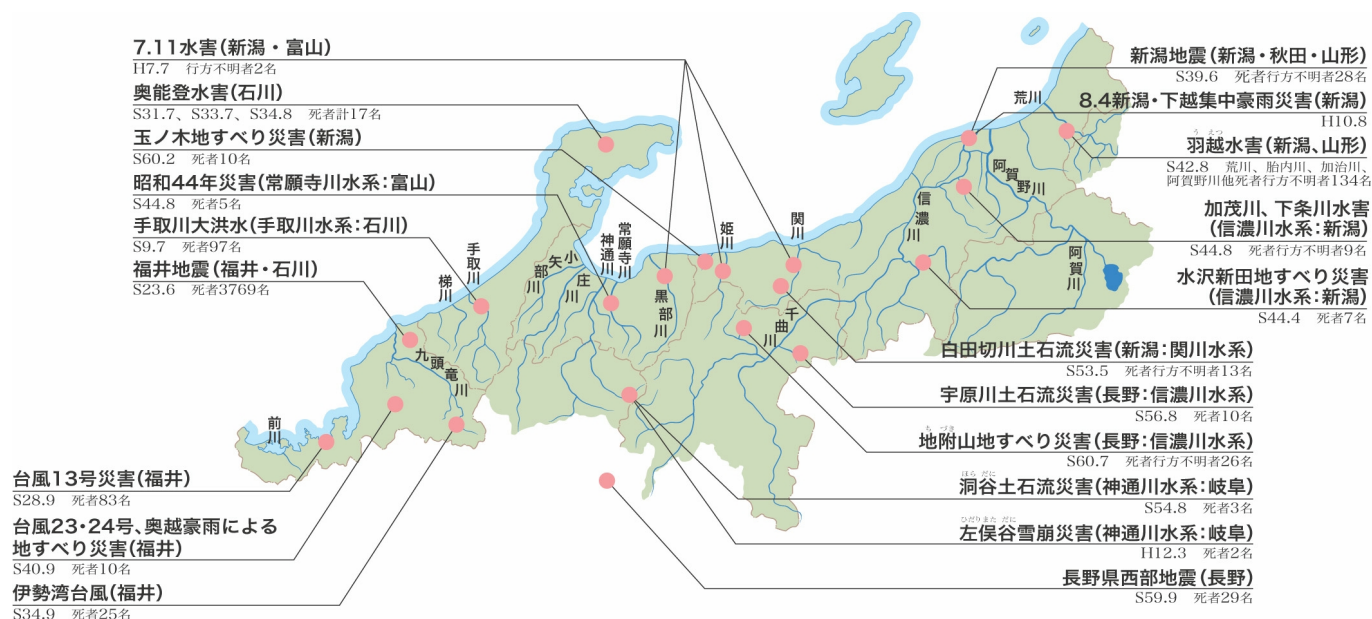
H 7.7.11.梅雨前線豪雨による災害(長野県小谷村)



北アルプスが日本海にまで迫り、交通の難所として知られる親不知(新潟県青海町)

●北陸地方における主な災害

脆弱な地質や急流河川、豪雪地帯といった厳しい自然条件によって、北陸地方はこれまでに数多くの災害に襲われてきた。



新潟地震(新潟県新潟市)



S38豪雪(新潟県)

◆主な豪雪

S38年豪雪(新潟・富山・石川・福井)
死者行方不明者256名

S56年豪雪(新潟・富山・石川・福井)
死者行方不明者130名

S59年豪雪(新潟・富山・石川・福井)
死者行方不明者55名



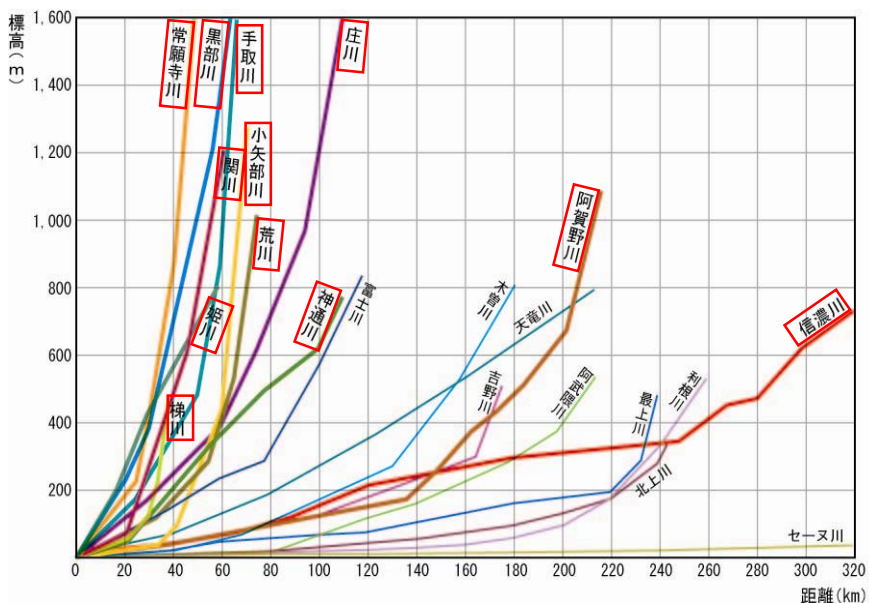
海岸侵食(石川県七尾市)



H10.8.4 新潟・下越集中豪雨災害
(北陸自動車道新潟西IC付近)

●日本の急流河川は北陸地方に集中

山から海までを一気に流れ落ちる急流河川は、流れる水の力で流域の土砂を削り、下流へと運び、様々な河川災害を引き起こす。

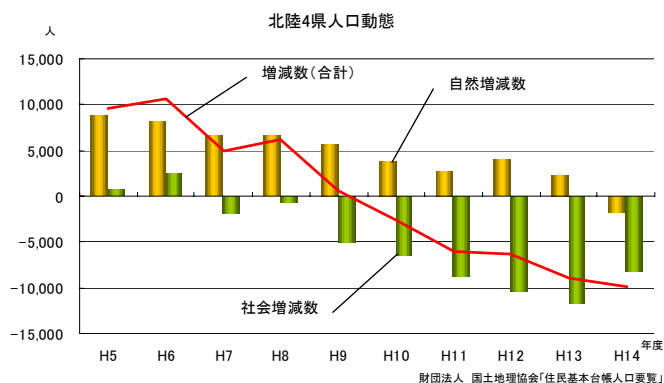


●北陸4県の人口推移

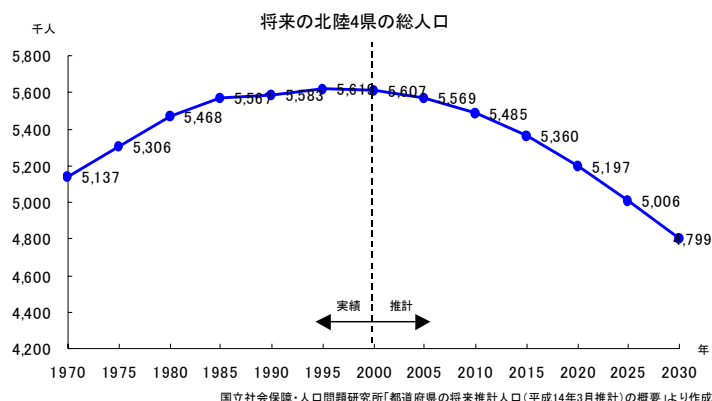
1997(H9)年度以降、毎年5,000～10,000人を超える社会減となっている。また、自然増減も年々減少傾向にあり、2002(H14)年度にはマイナスに転じた。

また、北陸4県の総人口は、2030年には2000年比で14.4%減の4,799千人になると推計されている。

<北陸4県の各県における人口の自然及び社会増減数の合計>



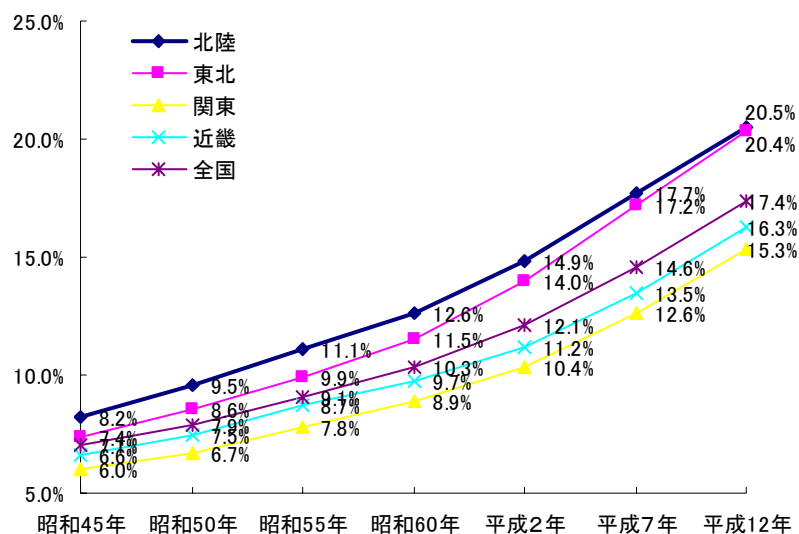
<将来の北陸4県の総人口>



●北陸は高齢化が最も進行している地域

北陸地方の高齢化率は全国で最も高く、最も早く高齢化が進行している地域となっている。これに伴い、交通や医療をはじめ日常生活の中でも、安全・安心な暮らしを確保していくための取り組みが急務である。

高齢化の進行とともに、高齢者の交通死亡事故者数が全国的に大幅に増加している。



資料:総務庁統計局「国勢調査報告書」

	平成4年	平成14年
交通死亡事故者数に占める65歳以上の死亡者数	2,991 人	3,144 人
割合	26.1%	37.8%

北陸地方における高齢者人口10万人あたりの交通死亡事故者数は全国平均を上回っている。

県名	高齢者人口10万人あたりの交通事故死者数	全国順位
新潟	20.3	11
富山	15.9	23
石川	17.8	15
福井	23.0	6
全国平均	14.3	-

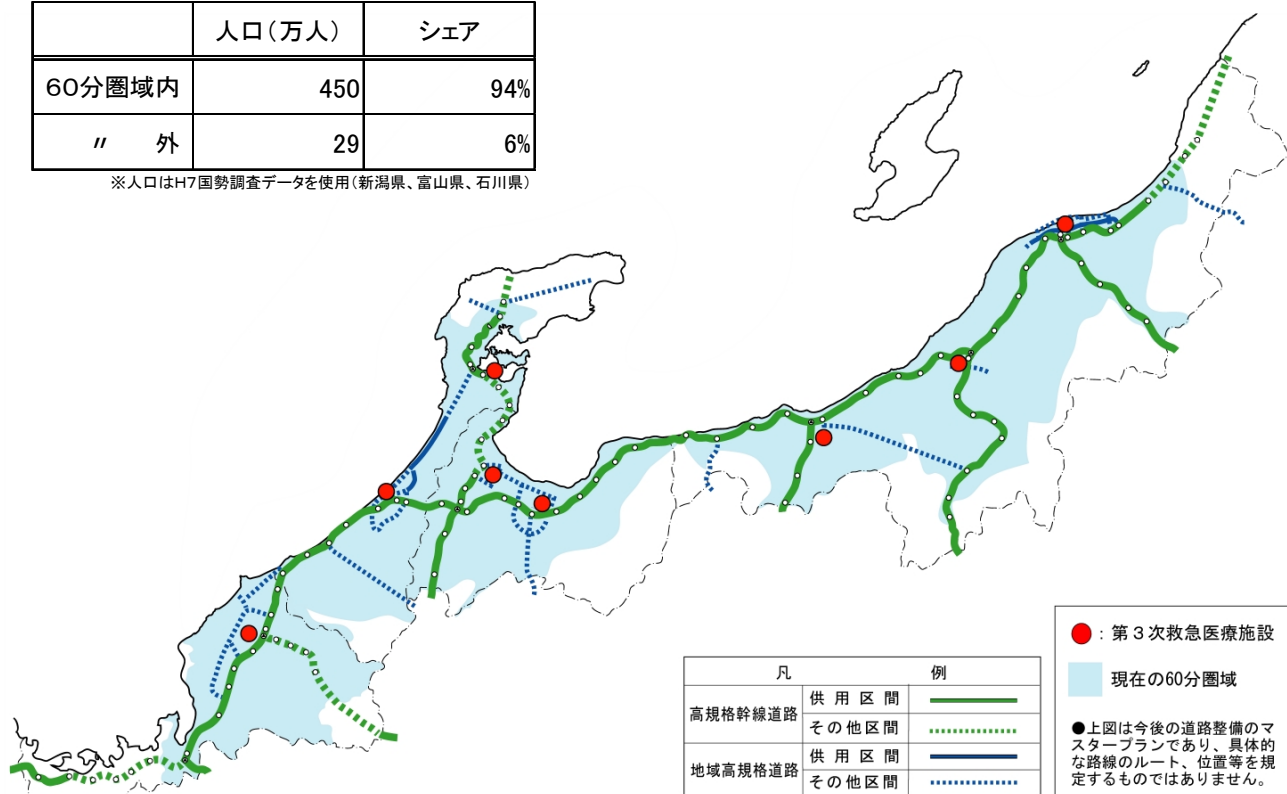
資料:交通年鑑

●北陸は第3次救急医療施設へのアクセスが十分ではない

北陸では、未だ29万人が第3次救急医療施設に60分以内に到達できない。

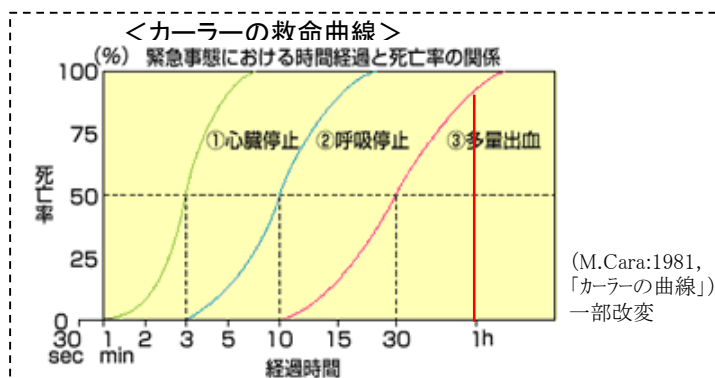
	人口(万人)	シェア
60分圏域内	450	94%
〃 外	29	6%

※人口はH7国勢調査データを使用(新潟県、富山県、石川県)



※第3次救急医療施設

第2次救急医療施設では対応できない複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者に対し、高度な医療を総合的に提供する医療施設(救命救急センター)



60分以内に治療を受けられた場合、多量出血でも命が助かる可能性がある。さらに、30分以内に手当がされれば、多量出血の死亡率は50%に低下する。

医療施設に少しでも早く到着することが、救命率を高め、より多くの人命を守ることにつながる。

